

ふだんなにげなく使っている言葉の中に、もともとの意味を知らないためにまちがって使っていたり、言葉の意味をかんちがいして使っていたりするものがありませんか。

語源や正しい使い方について調べてみましょう。

りんごを買いに出かけた陽子さんが店の前まで行く
と、産地直送のりんごの試食会をやっていた。りんご
を食べて感想を言ったら、おみやげにりんごを五つも
もらった。恵子さんは思わず、「ラッキー！ 犬も歩け
ば棒にあたるね。」と言った。

この話を聞いた鉄男君、
自分もりんごをもらおうと
出かけたが、途中で雨が
降ってきて、走ったらころ
んでしまった。くじいた足
を引きずりながら鉄男君は
「ああ、犬も歩けば棒にあ
たるだな。」とつぶやいた。



「犬も歩けば棒にあたる」ということわざは、陽子さんと鉄男君と、どちらが正しい使い方をしているでしょう。今ではほとんどの人が、恵子さんのように「ラッキー」といった気持ちを表すときに使っているのではないのでしょうか。鉄男君のように「災いにある」という意味で使う人は、あまりいないようです。

しかし、このことわざは、もともと「ものごとをしようとする者は、思わぬ不運や災難にあうことのとえ」でした。それが転じて「幸運にあう」意味でも使われるようになったのです。陽子さんの使い方もまちがいではないのですが、鉄男君のほうが正しい使い方をしているのです。

では、次のことわざはどうでしょう。



重い荷物を持って階段を上がつていく桜田君を見かけた弓子さんと春絵さん。二人とも同時に（手伝ってあげようかしら）と思った。しかし、そのあと二人の考えたことは全く正反対だった。

弓子さん： 情けは人のためならずだから、手伝うのはやめよう。

春絵さん： 情けは人のためならずだから、手伝ってあげよう。

弓子さんは「同情して手伝うのは桜田君のためにならない。だから手伝うのはやめよう。」と考え、春絵さんは「同情して手伝うということは、いつかは自分もそうしてもらうことがあるということだ。めぐりめぐって、自分のためになることもあるので、手伝ってあげよう。」と考えたのです。

さて、「情けは人のためならず」は、どちらの使い方が正しいのでしょうか。調べてみましょう。

まちがって使われている言葉はことわざだけではありません。例えば、次のような言葉の場合はどうでしょう。

「あの人は何を考えているのかよくわからない。気がおけない人だ。」

「あの人はもう十年も前からの知り合いなので、気がおけない人だ。」

「気がおけない」を、「安心できない」とするか「遠慮がない」とするかで、使い方は正反対になります。この場合、「気」は、「気をつかう」とか「気にとめる」「気をまわす」とかの「気」で、「ものごとをうまく運ぶためにつかう心」のことです。「気がおけない」は、そういう配慮をする必要がない間がらを表すときに使う言葉で、「安心できない」という意味で使うとまちがいになります。

次の言葉も、まちがって使われやすいものの一つです。

「健次君、今度生徒会の会長になったんだってね。おめでとう。第一中学校のために、君の活躍を期待しているよ。」

「ありがとう」ございます。生徒会の会長なんて、ぼくは役不足なんです。第一中学校の生徒会のために精いっぱい努力したいと考えています。」

この例で、まちがって使われている言葉は「役不足」です。健次君は、自分の実力が十分ではないと謙そんして言ったつもりなのですが、これでは、聞いた相手は驚いてしまいます。なぜなら「役不足」というのは、「与えられた役目が、自分の能力よりはるかに軽い」と感じられたときに、不満な思いをこめて使う言葉だからです。だからこの場合、健次君は「生徒会長なんか、ぼくの能力からみれば軽いものさ。」と言ったことになってしまいます。

言葉づかいの専門家であるアナウンサーも、時にはまちがった言葉づかいをすることがあります。

《マラソンの実況中継で》

山田、快調な走りです。あ、前に行く田中を抜きました。田中の前には中山がいます。あ、中山も抜きます。山田、速い。山本も抜きました。本田も抜かれます。すごいです。田村も、村山も抜いていきます。なんと、山田、ここまでで六人抜いています。ごぼう抜きです。

「ごぼう抜き」のまちがった使い方です。正しい使い方を調べてみましょう。

ほかにも、まちがった使い方をしやすい言葉として、

「一姫二太郎」

「小春日和」

「早生まれ」

などがあります。また、「一所懸命」を「一生懸命」と書き、今ではどちらも使われるようになったものもあります。「ぬれ手にあわ」なども誤解しやすいので気をつけましょう。